

小林製薬株式会社 2024 年 12 月期第 4 四半期 決算説明会 質疑応答要旨

Q：2025 年業績予想の前提（決算資料 P27）について、広告費 52 億円増に対して売上増による利益貢献が 37 億円しかないのはなぜか。

A：国内売上は通期では前年並の計画となっておりますので、売上増による利益貢献 37 億円は主に国際事業の売上増に伴う利益増の影響がほとんどです。国内の広告再開は第 2 四半期からを前提としており、第 1 四半期までは国内売上マイナス 13%（対前期）の予測になっております。広告再開後は、増収の予測ですが、通期では国内売上は前年並となる見通しです。また、広告に関しては、すぐに効果を回収できる訳ではなく、単年では厳しく見えるかもしれませんが、翌年以降も効果は現れてくるものと考えております。

Q：2025 年業績予想の前提（決算資料 P27）について、品質投資（人件費も含む）31 億円増の内訳は？

A：品質投資というのは、製造における各製品の品質アップのための施策や、できた製品に対するチェック強化（分析など）のための投資になります。「人件費を含む」としておりますのは、品質強化のための人員はもちろん、一般的な昇給や採用等による人件費増も含まれております。

Q：2025 年業績予想の前提（決算資料 P27）について、新棟投資 21 億円増の内訳は？

A：まずは仙台工場の医薬品新棟、合肥工場（中国）の新棟などの減価償却費が増えております。また、関連経費（光熱費・修繕費・消耗品費・取得税など）も含めております。

Q：2025 年業績予想の前提（決算資料 P27）について、その他 32 億円増の内訳は？

A：日々の活動をするにあたって必要となる外部業者への業務委託費用（支払手数料）の増加分が多く占めております。また、物流費や販促費の増加分なども含まれております。

Q：「3 年後に元の利益水準に戻す」（決算資料 P31）とは、利益額か利益率の話か。また、「3 年後」とは 2027 年を想定しているのか？「元の」とはいつの話か？

A：まずは、利益額を戻していく必要があると想定しています。また、「3 年後」というのは、2027 年もしくは 2028 年 12 月期を想定しております。「元の」というのは、2023 年 12 月期です。社内でも検討中の段階であり、詳細については 2025 年 8 月にお示ししたいと考えております。

Q：2025 年の業績予想は、かなり保守的に算出しているようにも見えるが、アップサイドはないのか？

A：広告再開後の売上については、アップサイドも期待できる反面、暖冬や感染症といった環境面でのダウンサイドもあり、今回公表した目標の達成を目指したいと考えております。ただし、広告再開後の売上動向次第で、業績予想の修正が必要と判断すれば、適時適切に開示する考えでおります。

Q：構造改革（決算資料 P30）による貢献は、2025 年の業績予想には含まれていないのか？

A：一部含まれておりますが、2025 年より大きく貢献するような想定ではおりません。

Q：中国大陸に関して、2024 年の着地は大幅減収だったが、その背景と 2025 年の見通しは？

A：2024 年は、7 月までの広告停止の影響が大きく、また下半期にかけてはインフルエンザのような感染症流行がなく、熱さまシートの需要が減少したことが減収の大きな要因です。2025 年は、熱さまシートは 2024 年の反動による需要増を期待していることに加え、アンメルツに関しても、3 月から新しい代理店に変更し、配荷拡大を予定しており、プラス要因になると考えております。

Q：2025 年の国際売上目標「505 億円（対前期+12%）」の各国の内訳は？

A：米国は+約 10%、中国大陸は+約 20%、東南アジアは+約 10%程度の成長（対前期）で見えております。

Q：2025 年の国際の利益面での成長はどのように見ているか？

A：2025 年は、減益予想です。設備投資等の償却費で、国際製品の原価上昇が背景にございます。

Q：国内事業のヘルスケアの内、医薬品は大幅減収が継続しているが、2025 年のいつ頃回復する想定でいるのか？

A：医薬品については、ナイシトール等、紅麹関連製品と製品名が似ていることにより、影響を受けておりますが、その他の製品の多くは広告停止の影響が大きいと考えております。仮に第 2 四半期から広告を再開した場合は、それ以降売上回復できると考えております。

Q：製品値上げの貢献額は 2024 年で 40 億あったが、2025 年はどの程度の予想なのか？

A：2025 年の製品値上げ貢献額は約 10 億円と予想しております。過去 2 年間で製品値上げを実施してきており、2025 年の製品値上げ品目数は、昨年と比較し少なくなっております。

以上

【注意事項】

本資料に記載されている内容は、説明会での質疑応答内容をそのまま書き起こしたのではなく、当社の見解により加筆・修正等を加えて要約したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがございます。なお、業績見通しや将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な不確定要因により大きく異なることがある旨、ご了承ください。